

# ニュース学童保育

=私たちの活動 4つの柱=  
\*制度化と指導員の身分保障  
\*専門性と仕事の確立  
\*父母と共に学童保育運動の発展  
\*全国の指導員との団結と連帯

## 子どもたちの成長を保障する学童保育に 高崎市

### 市の独自補助 第3子無料など

高崎市の学童保育は、公設民営（一部公営あり）で地域運営委員会委託方式にて運営されています。

学童クラブ数は支援の単位で101（今年5月現在）あり、年々増加しています。

合併により地域も広が

りましたが、その分、高崎市内でも児童数の多いところ、反対に児童数が

減少している地区もあり、大規模の課題だけでなく小規模での課題もありま

す。高崎市は、中核市になった関係で運営委託料については、国の基準と「高崎市放課後児童クラブ運営指針」に基づいて、高崎市独自の算出方法で運営委託料が出されています。

基準額に加えて、高崎市子育て支援事業計画で第3子以降保育料無料化の実施（おやつ代は対象外等条件あり）や、ひとり親家庭への保育料補助（対象児童×年間1万2千円）、衛生・安全対策として支援員の健康診断

受診費用の一部補助（職員数4500円）など、毎年、市で予算化されています。

### 処遇改善予算化、しかし厳しい運営

処遇改善事業やキャリアアップ処遇改善事業も実施されて、今年度からは「育成支援体制強化事業」も予算化され、高崎市で決められた上限は1クラブ20万と低いものの会計士や労務士への外部委託費の補助は大変ありがたく感じます。

しかし、厳しい運営や支援員の雇用・身分保障等はまだまだ不安定な部分も多く、離職する支援員も後を絶ちません。

高崎市としても、市広報誌に学童クラブの求人募集を掲載する協力も



ていただいています。支援員不足は高崎の学童クラブでも大きな課題です。

### 慰労金 要望するが通らず

高崎市に対する意見・要望等は、市連協や指導員会でまとめて伝えていくようにしています。

指導員会も新型コロナウイルスの影響で活動が止まっています。学びを止めない」というオンラインを活用し会議や研修を再開、続けています。

行事なども、これまで通りにはできないまでも、こういった事ならできるとか、どのようなやり方なら可能なのか等、各クラブで試行錯誤しながら取り組んでいます。

新型コロナウイルス関連で、感染予防対策費を要望していますがお金ではなく物品でとの高崎市の考え方で、マスクや消毒液が不定期ではありませんが高崎市から各クラブ

へ支給があります。

また、保育従事者に対する慰労金交付が群馬県内でも市町村によって出されているところもあり、高崎市でも慰労金交付の検討を要望しましたが、実施されていません。

「コロナ禍における原油価格・物価高騰対応分」を含めた「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」においても働きかけが必要です。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う学童クラブ閉所の判断やコロナ禍での運営や保育を行ううえでは、高崎市担当課ともより連携を図り、感染症拡大防止対策を続ける中でも、学童保育の役割を果たし、保育内容を振り返り、子どもの成長発達を大事にした活動が保障されているかを考えていくことが大切になってきていると思います。

（群馬・高崎 第2八幡学童クラブ 新津）

### 「わたしたちが求める学童保育所の最低基準」、今秋発刊予定

今月の部会総会で「わたしたちが求める学童保育所の最低基準」の内容を確認し、各地で広く普及していきます。